

「障害理解研究」執筆及び投稿に関する規定

論文の投稿にあたっては、執筆規定に則り作成した原稿をご提出ください。規定を無視した原稿は審査の前に著者に戻す場合があります。

1. 投稿は随時受け付ける（期間や期限を設けない）。なお、審査に合格し、掲載が決まった論文は随時、Web上（学会のホームページ）で公開される。印刷物の出版は行わないことに留意されたい。
2. 本誌の対象は、障害理解に関する研究や実践報告、資料である。例えば、障害理解の必要性を明らかにするための基礎的な研究（障害者を取り巻く環境、障害者のニーズ、市民の認識、書籍等の内容分析といった研究）、障害理解に関する活動の実施状況や内容を調べた研究、障害理解教育・指導の実践やその効果を調べた研究などが挙げられる。
3. 論文の長さについて特に規定を設けない。ただし、論文の内容が過不足なく示されているかどうかは、当然のことながら審査の対象となるため、研究の目的や内容に照らして適当な容量に納めるよう努めること。
4. 原稿は横書きワープロ（Microsoft Word 文書）で作成する。一太郎等のソフトを用いている場合も、Word 文書に変換した原稿を提出すること。
5. 叙述は科学論文にふさわしく簡潔にし、図・表などは最小限にとどめて、本文と図・表の無意味な重複を避けること。
6. 学際的な雑誌であるので、一つの学問領域の研究者にしか理解できない専門用語の使用はなるべく避けること。やむを得ず使用する時は、初出の時に説明をつけるなどの配慮をすること。
7. 脚注はつけず、注を付ける場合は、巻末に番号をつけて並べること。
8. 可能な限り日本語の単語を使用し、カタカナ語の乱用は避けること。
9. 本文中の氏名には敬称をつけないこと。
10. 海外の主要な用語、外国の人名・地名などには、初出の時に原語をつけること。
11. 引用文献は論文の最後にアルファベット順に並べる。文献の記述形式は13番のI)を参照のこと。
12. 論文には英文タイトルと英文要約を必ずつけるものとする。要約には研究の目的、方法、結論を具体的に記述し、論文の内容と一致するように注意する。例えば、「何々について討論された」のようなあいまいな表現を避け、著者が具体的に何を主張したのかについて明確に書くこと。英文要約の長さは原則として刷り上がり1ページ以内とする。

英文要約の提出については次のようにする。

 - A) 英文は2000字以内におさまるようにする（単語数は350語を目安とする。この語数を超えると2000字を超える可能性がある）。
 - B) 必ず邦訳を添える。
 - C) 英文に熟達した人の校閲を受けてから提出する。
13. 原稿は下記の要領に従って作成するものとする。
 - A) A4判用紙に、1段組み44字×40行（横書き）で執筆する。余白は上下25mm、左右20mmとする。
 - B) 原稿の構成は次の通りとする。
 - a) 第1枚目を論文審査依頼書とする。論文審査依頼書の書式は自由であるが、題目（日本語および英語）、所属（正式名称を記すこと。大学教員は大学名のみでよい。大学院生は大学名とともに学生である旨を明記すること）、氏名（日本語および英語）、連名論文の場合には連絡責任者、その連絡先（原則としてメールにてやりとりを行うため、Eメールアドレス及び電話番号など）をもれなく記載する。
 - b) 第2枚目から題目（日本語および英語）と本文を記す。文字のフォントサイズは題目が16ポイント、本文が10.5ポイントとする。本文（和文）の句読点は「、」「。」を使用し、英文は「,」「.」を使用する。
 - c) 本文中の見出し（「問題と目的」、「方法」、「結果と考察」など）はゴシック体にし、ローマ数字（I. II. III. …）の番号を付ける。見出し「文献」はゴシック体にし、番号は付けない。ローマ数字を用いた見出しの次の小見出しはゴシック体にし、算用数字（1. 2. 3. …）を用いて番号を付ける。なお、見出し作成にあたっては、自動の段落番号（改行すると自動的に番号が現れる機能）を用いないこと。
 - d) 本文の字体は、日本語はMS明朝、英語や数字はcenturyを用いる。
 - C) 統計の結果を示す際にはアルファベット（ χ^2 、 t 、 p 、 F 等）を斜体（イタリック）にする。有意差を示す

場合には、整数の 0 を省略せず、 $p<0.01$ 、 $p<0.05$ と記す。

- D) 項（小見出し）の番号を除き、数字は半角にする。
- E) 図・表・写真は文献の後ろに（つまり、本文原稿に続けて）、1 頁に 1 つずつ付ける。本文中には図・表・写真の挿入場所を赤字で示しておく（コメント機能を使って示してもよい）。ただし、本文原稿に付すことが困難な場合（横向きの図等）は、別紙に添付してよい。いずれの場合も鮮明な画像を添付する（スキャナで読み取った画像を添付することは避け、やむを得ない場合には事務局に相談すること）。
- F) 図のタイトルは図の下、表のタイトルは表の上の中央に配置する。図表番号の後に読点（.）を付ける。
- G) 図表に関しては、原則として 9 ポイントより小さいフォントサイズは用いないこととする。なお、編集委員会が図表の修正を依頼することがある。
- H) 図・表・写真ともに原則として白黒で作成する。ただし、カラー写真を掲載する必要のある場合は、その旨を事務局に申し出ること。
- I) 本文最後に示す文献の書き方は日本心理学会の示す『執筆・投稿の手引き』に倣うこと。文献欄は、アルファベット順に掲載し、文献の頭に番号や中黒点等は付けない。また、一つの文献が 2 行以上にわたる時は、2 行目以降を 1 字下げする。

本文中において文献を引用する場合は、以下の通りとする。

- a) 初出は全員の姓を（例：渡辺・田原・中村（2005））、2 回目以降の引用の場合、3 名以上であれば「ファーストオーサーの姓＋ら」（例：渡辺ら（2005））とし、2 名以内であれば省略しない。同一著者が同年に発行した論文を本文中に引用する場合は鈴木（2013a）、鈴木（2013b）というように、発行年の後に小文字アルファベットをつける。この記述方法は本文最後の文献においても同様である。
- b) 外国著者の文献を本文中で引用する場合、姓の最初のみを大文字、後は小文字で示し、著者同士を半角カンマ（,）と&でつなぐ（例：2 名の場合は Sato & Saito、3 名以上の場合は Sato, Saito & Kato）。日本人著者と同様に初出は全員の姓を記し、2 回目以降の引用においては、3 名以上であれば「ファーストオーサーの姓＋et.al.」とし、2 名以内であれば省略しない。
- J) 謝辞や付記は、必要に応じてこれを載せることができる。研究費等の助成を受けている場合は、その旨を付記として記載すること。

14. 原稿は原則としてメール添付の形で提出する。諸事情により郵送で原稿を投稿する場合は、印字された原稿とそのコピー 2 部の計 3 部、CD-ROM を送付すること。なお、CD-ROM 等を提出する場合は下記の点に留意する。

- A) 提出する CD-ROM には論文・図・表以外のものを入れない。
- B) 提出する CD-ROM には、ワープロの機種名・ソフト名を書く。

15. 送付先： E-mail: jsrikai@yahoo.co.jp

※郵送する場合→〒930-8555 富山県富山市五福 3190 富山大学人間発達科学部 西館有沙 宛
Tel/Fax: 076-445-6340

16. 投稿料および掲載料について

- A) 投稿に際し、審査等に要する費用として 3,000 円を、振込にて支払う。投稿時に払込票の写しをスキャナで読み取りメール添付するか、Fax（076-445-6340）によって送付すること。
- B) 掲載が決定した場合には、決定通知を得て 2 週間以内に掲載料 10,000 円を、振込にて支払う。
- C) 振込先は、投稿料と掲載料のいずれも下記の口座である。

振込先：三菱東京 UFJ 銀行、上本町支店、普通口座、口座番号 4885782,
加入者「日本障害理解学会」